

平成30年度

町長

施政方針

挑戦のまち神石高原町創造予算



広島県神石高原町

平成30年度 施政方針

1. はじめに

平成30年度神石高原町一般会計及び特別会計並びに事業会計の当初予算案を提出するにあたり、その概要と町政運営に対する所信を申し述べ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

初めに、私が町長に就任して1年が経過いたしました。多くの町民、町議会、関係者の方々にご支援、ご指導を頂き、この1年間町政運営に取り組むことが出来ました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。自分なりに良いスタートを切らせて頂いたと思っております。1年目の評価としては、優良可の中で良と可の間くらいと自己評価をしているところでございます。

本年、2年目となり、いよいよ、本格的に、具体的に事業を進める段階に入りました。

1年目は、誰もが挑戦できるまち神石高原町の創造を目指し、多くの取り組みを進めてまいりました。「ノートライ、ノーチャンス」という言葉どおり、やらなければ何も生まれないという思いで、多くの種をまいた年でした。すでに芽を出しかけているものもありますが、今後、しっかりと水をやり肥料も与え、大きく育てなければなりません。最終的には、大きな実をつけるという結果を出さなければならないと思っております。

それに加え、生活インフラの維持管理、安心安全な暮らし、高齢者の生きがいつくり、子育て、教育の魅力化など町民すべての方々が、本町に住んでよかったと実感できる、そして持続可能な神石高原町づくりを目指します。町民の皆様、議員各位におかれましては、引き続き格別の

ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、所信を申し述べます。まず、国際的な情勢でございます。トランプ米大統領は、1月30日、初の一般教書演説を行い、好調な経済など実績をアピールしました。その一方で、治安でも雇用でも、米国が危機にさらされているという認識の中、政策の柱として、1.5兆ドル（約163兆円）規模のインフラ投資や、約180万人の不法移民の子どもの救済とメキシコとの国境の壁建設の予算措置など、両面からの移民政策を行う考えを明らかにしました。

安全保障、外交の分野では、防衛費の増額を要請、2月2日には、核戦略の見直しを発表し、核の役割を拡大する方針を鮮明にしました。

特に、北朝鮮との関係は緊張感を増しており、韓国も含め、今後の外交情勢は目を離せない状況にあります。

国内に目を向けますと、我が国の経済は、景気の緩やかな回復基調が続いており、雇用・所得環境の改善などにより、経済の好循環が実現しつつあります。反面、経験したことのない人口減少に対し、様々な施策の実施が急がれています。こうした中、政府は、継続的な経済成長を成し遂げるため、幼児教育の無償化や介護人材の処遇改善など、平成31年10月に引き上げ予定の消費税を財源とし、社会保障制度を「全世代型社会保障」へ改革する「人づくり革命」を進めます。また、地域の中核企業や中小企業による設備・人材への投資の促進、人工知能（AI）やモノのインターネット（IoT）などの推進、産官学連携での研究開発を支援する「生産性革命」を推進しています。さらに、誰もが能力を發揮できる柔軟な労働制度への「働き方改革」を断行し、あらゆる人にチャンスをつくることで、「国難」である少子高齢化を克服していくとしています。

平成30年度の国の予算は、「経済・財政再生計画」の集中改革期間の

最終年度の予算として、「経済再生と財政健全化を両立する予算」と位置付け編成されました。一般会計総額は9兆7,128億円で、高齢化に伴う社会保障費の増額、北朝鮮情勢の緊迫化を受け防衛費も拡大されました。

一方、景気回復に伴う税収増で、新規国債発行額は3兆3,922億円で安倍内閣発足以来6年連続で縮減され、財政健全化に配慮された予算となっています。

また、広島県においても、2月13日、一般会計9,538億9千万円の平成30年度当初予算案を発表し、仕事と暮らしの両方を充実させる「欲張りライフ」を県民の目指す姿とし、その応援予算として位置付け、実現していくこととしています。

子育て・健康、経済成長、防災・減災、地域づくり、平和・国際交流を柱とし、子育て施策においては、子どもの貧困対策やひろしま版ネウボラのモデル事業の拡充などによる適切な支援、経済成長においては、AIやIoTなどの活用推進、地域づくりにおいては、遊休施設を利用した企業のサテライトオフィス誘致を目指す市町に整備経費を補助し、中山間地域の活性化を図るなど、未来への投資に重点を置いた予算となっています。

このような、我が国を取り巻く環境の中、国の改革や県の施策等と本町も一体となり、一億総活躍社会の実現と経済の好循環、少子化、高齢化の課題解決に取り組んでまいります。

さて、本町におきましては、依然として人口減少に歯止めのかからない状況が続いております。平成27年に策定した「神石高原町人口ビジョン」において、平成72（2060）年に人口7,500人の確保と人口構造の若返りという目標を掲げ、「神石高原町まち・ひと・しごと創

生総合戦略」に基づき事業を展開してまいりました。しかし、平成28年度においては、目標の年間80人の転入超過に対し、転出超過39人であり、子育て世代の確保による出生数の増加を目指す戦略が功を奏していない状況であります。こうした現状を踏まえ、平成29年度において、原因を分析し、中間的に施策の見直しを行いました。

本年度からは、新たな施策に基づき人口増につながる様々な事業を展開するとともに、これまで、世代を超えて作り上げられてきた神石高原町の魅力や価値を高め、本町だからこそできる取り組みを進めていく必要があると考えております。

その取り組みの原動力は「人材」であり、「人と人とのつながり」です。学びの場としても、働く場としても、「神石高原町にチャンスあり」と年齢や職業に関係なく、それぞれの持ち味を活かし挑戦する人を後押しする仕組みづくりから、まちづくり、地域づくりを進め、神石高原町に誇りと愛着を持ち、「住んで良かったと実感できる」まちづくりに、町民の皆様と共に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

2. 予算編成の基本方針

それでは、平成30年度における予算編成にあたっての基本方針をご説明いたします。

前牧野町長が、秋の叙勲（旭日小綬章）を受章されました。誠にお目出度いことです。3期12年の在職中、豊富な経験と優れた識見・指導力をもって本町の発展に尽力され、「誰もが住んでみたいまちづくり」の実現のために多大な功績を残されたことが認められ栄えある受章となりました。その牧野町政を引き継いだ私も、その基本的考え方を踏襲し、健全財政の維持に向け行財政運営を進めてまいります。

「神石高原町人と自然が輝くまちづくり」の5つの基本方針である、「高原の特徴を生かした快適で魅力に満ちたまちづくり」「福祉が充実した安心して暮らせるまちづくり」「自然と歴史を生かした文化的なまちづくり」「地域の資源を生かした活力あるまちづくり」「生活基盤の整った一体感あふれるまちづくり」を継続し、その上で、将来に向けたまちの魅力化、内外に通用する人材育成、人口の増加に向け、新たな挑戦も含め、取り組みを進めてまいります。

はじめにも申し上げましたが、本町が最も早急に取り組まなくてはならない課題は、「人口減少対策」です。住民との対話、職員のスキルアップにより、各種事業の生産性を向上させ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現と「8つの挑戦」を積極的に推進することで、転入増を図り、人口増加を目指します。

新年度の取り組みにつきましては、更なる魅力向上のため、特に子育て支援・教育支援に財源を配分し、町民が安心して暮らし、子どもたちが心身ともに健やかに夢を持って成長し、次代につながるコミュニティがある、「小さくても元気のでるまちづくり」を推進します。

歳入の面において、今後の地方交付税の縮小は、特に憂慮すべき問題であり、庁舎、病院建設を見据える中、限られた財源の効率的、効果的な活用を行い、将来に渡る公債費の抑制やこれまで積み立ててきた基金の有効活用を図り、持続可能な財政運営を行うことを前提に予算編成を行いました。

その結果、平成30年度の当初予算規模は、

一般会計 123億（対前年度比25.9%増）

特別会計 36億7,850万円（対前年度比13.4%減）

病院事業会計 5億8,191万円 (対前年度比44.2%増)

合計 165億6,041万円 (対前年度比14.8%増)

となりました。

一般会計においては、地方創生事業の実現、種をまいた8つの挑戦の成長、新たな挑戦、平成31年度からの庁舎、病院建設事業を見据えた新町建設計画の見直しによる事業の前倒しと公債費の繰上げ償還により、前年比25億3千万円増の、当初予算としては、本町発足以来最大規模の積極型予算となりました。

3. 当初予算（案）の概要

一般会計の概要についてご説明いたします。まず、歳出についてですが、性質別歳出の対前年比を見ると、義務的経費8億3,744万円（24.8%）の増、投資的経費13億5,539万円（108.8%）の増、その他の経費3億3,719万円（6.6%）の増でございます。

義務的経費の主なものは、人件費1,707万円（1.2%）の減、扶助費3,530万円（6.5%）の増、公債費8億1,921万円（58.5%）の増と、人件費が職員の退職に伴い減少する一方で、庁舎、病院建設等を見据え、今後の財政運営を考慮した起債の繰上げ償還による公債費が増加しております。

投資的経費については、普通建設事業費で、前年度より13億5,539万円（109.1%）増加しました。これは、庁舎建設、さんわ182ステーションのリニューアル、旧豊松中学校体育館の屋内グラウンド化、油木小学校体育館改修、し尿処理場改修、スコラ高原浴場改修など大規模な工事を行うためでございます。また、その他の経費については、経常経費の抑制に努める一方で、お試しオフィスや夢ゼミ、ふれあいタクシー事業や町立病院への補助金など増額予算となっております。

物件費については、地籍調査事業、し尿処理場の業務委託などにより、前年度より1億7,528万円（10.2%）増加いたしました。

維持修繕費については、仙養ヶ原ふれあいの里の施設修繕等が終わり、前年度より1,899万円（17.8%）減少しています。

補助費等については、協働支援センター運営費補助をはじめ、生活交通機関確保事業の継続実施に伴い、前年度より2億4,935万円（14.5%）増加しています。

繰出金については、簡易水道事業における油木市場地区水道管布設替や安田上地区簡易水道施設整備の完了により、前年度より8,097万円（7.4%）減少しています。

続いてこれらの財源である歳入の概要についてご説明いたします。

本町の主たる自主財源である町税については、企業の設備投資の減による固定資産税の減少、大手企業の大幅な減収による法人町民税の減少など、総額9億3,326万円と前年度より3,850万円（4.0%）の減を見込んでいます。

地方譲与税や各種交付金は、基本的に県からの交付見込額を計上しています。

各種交付金については、総体的に圧縮されるなか自動車取得税交付金については、前年度より1,230万円増加し、7,775万円を見込んでいます。

とりわけ、歳入の大半を占める地方交付税については、国の予算額2.0%の減少を受け、前年度より1億円の減少を見込み48億6,000万円を計上しています。

普通交付税は、平成29年度ほど大きな見直しはありませんが、「障害児保育に要する経費の算定」が追加されたこと、人口減少等特別対策事

業費については「取り組みの必要度」に重点をおいた算定から「取り組みの成果」による算定に一部シフトしたこと、地域の元気創造事業費については、「行革努力分」から「地域経済活性化分」へシフトすることによって、本年度の予算は、前年度より1億円少ない46億円を予算計上しています。

また、特別交付税については、地方創生関連事業に要する経費の算定の増加を見込み、前年度ベースを維持し2億6,000万円を予算計上しています。

次に補助金ですが、国の補助金については、児童の発達支援や生活保護に対する支援の増加や、農山漁村活性化整備対策交付金を活用し、さんわ182ステーションのリニューアル工事を行うなど、前年度より1億1,520万円多い5億5,618万円を見込んでいます。

県補助金については、地籍調査事業、林業再構築プロジェクト、新規就農者ほ場整備事業等の増加に伴い、全体では、前年度より、7,995万円増加し、6億4,481万円を予算化しています。

繰入金については、庁舎建設事業に重点公共施設新設整備基金を、増加する公共施設の修繕工事に公共施設総合管理基金を活用します。また、将来の財政負担を抑制するため、減債基金を活用し起債の繰上償還を行います。併せて、定住促進事業として取り組んでいる、保育料、学校給食の無償化を行う財源として、保健・医療・福祉事業基金を活用します。また、交付税減額に伴う財源としては、財政調整基金から繰り入れを行い、前年度より、11億8,278万円多い18億1,983万円を予算化しています。

地方債については、交付税算定上、最も有利となる事業に限定して充当することとし、本年度は、過疎対策事業債を病院の建設、かがやきネットサーバー更新、やすらぎ苑空調整備、スコラ高原浴場改修、油木小

学校体育館改修，旧豊松中学校体育館の屋内グラウンド化工事等に充当します。また，合併特例事業債を庁舎や保育所建設，し尿処理場，道の駅改修事業等に充当することとしており，前年対比104.9%，11億8,150万円増額し，総額23億730万円の借り入れを計画しています。

歳入見込みの結果，本年度の歳入財源内訳は，自主財源比率が28.0%，依存財源比率が72.0%となりました。

積極型予算の確実な実行とともに，今後も引き続き，将来に向けての債務の解消，公債費の抑制に努めなければならないと考えております。以上が一般会計当初予算案の概要であります。

その他の会計については，医療費・介護保険の所要見込み額，簡水，集排に係る維持管理経費等として，8特別会計36億7,850万円と病院事業会計5億8,191万円の合計額42億6,041万円を一般会計と合わせて，総額165億6,041万円となりました。

4. 新年度の主要な施策

次に，新年度に取り組む主要施策について，5つの基本方針に沿ってご説明いたします。

(1) 「高原の特徴を生かした快適で魅力に満ちたまちづくり」

- ・魅力ある生活拠点づくり
- ・良好な生活環境の形成
- ・環境との共生
- ・景観保全，環境美化
- ・地域コミュニティの育成
- ・若者定住対策の推進

各地区協働支援センターでは，新たな協働の場として，地域課題の解決と地域特性を活かした活動への本格的な取り組みや，公民館業務の移

行による、地域の生涯学習やコミュニティ活動の拠点としての活動も始まっています。引き続き地域、住民、各種団体の主体的かつ積極的な活動を支援します。

定住促進、人口増の取り組みとして、井関地区第2定住促進団地の整備に向けた調査や、老朽化している町営住宅を改修し新たな入居者の掘り起こしを進めます。

簡易水道事業については、各施設等の維持管理に努めるとともに、本年度は、高蓋地区水道施設の老朽管の更新計画を立て、今後の安定した飲料水の供給に取り組みます。

また、し尿処理場施設管理業務を民間委託し、施設の円滑な運営を図ります。

防災、安心、安全対策の推進としましては、避難所開設等の備えとして備蓄用品の充実を図るとともに、国土強靱化地域計画を策定し、自然災害から人命を守り、被害を迅速に回復させる「強さとしなやかさ」を備えたまちづくりに取り組みます。

併せて、老朽化した庁舎の建設を進め、行政機能の強化と、ワンストップサービスによる住民サービスの充実に取り組みます。

消防団においては、豊松方面隊のポンプ自動車の更新と耐震性防火水槽の設置を行います。

また、地元消防団活動に対する支援として、老朽化したヘルメットの更新等、消防団活動に対する安全対策に務めるとともに、引き続き、自主防災組織を中心とした災害に強いまちづくりの推進に取り組みます。

有害鳥獣駆除対策としては、増え続けるイノシシに対する捕獲奨励金の増額や猟銃購入費助成を行い、捕獲班員の活動を支援するとともに、農作物被害の防止と生産者支援に取り組みます。

(2)「保健・医療・福祉が充実した安心して暮らせるまちづくり」

- ・健康づくりの推進 ・医療の充実 ・高齢者、障がい者（児）福祉の推進
- ・子育て支援と若者定住対策の推進（子育て世代包括支援センター立ち上げ）
- ・ふれあい、支え合いの地域づくり ・動物愛護

「健康神石高原21計画（第2次）」の見直しと「地域自殺対策事業計画」の策定を行い、町民の健康づくりの推進を図ります。

「町立病院建設プロジェクト」においては、移転先の用地造成工事に着手します。

町内の医療・介護ニーズを見据えながら、限られた地域資源を活かし、保健・医療・介護・福祉の関係者が連携してサービスを提供する、地域包括ケアシステムを構築し、医療サービスと介護サービスを切れ目なく提供するとともに医療と介護の連携にこれまで以上に取り組んでまいります。

また、安心して子育てを行う環境の整備として、昨年から協議を始めた、小児医療体制の構築と病後児預かり制度についても、引き続き、広島県、福山医師会の先生方のご指導を頂きながら、実現に向けて検討を進めます。

併せて、地域医療の確保については、本年度からの「広島県保健医療計画 地域計画（福山・府中二次保健医療圏）」を受け、本町の保健医療の将来像について検討していきます。

さらに、高齢者の方々が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう介護予防事業、認知症予防事業を継続します。若い時期からの介護予防意識の啓発、認知症サポーター養成講座やカフェの開催など、介護福祉の関係機関が連携した生活支援を行い、きめ細かな保健福祉サービスの提供に努めます。高齢者に対するインフルエンザ予防接種の無償化も引き続き行い、また、ふれあいタクシー事業を継続し、

買い物や社会活動への参加を支援、促進し、元気な高齢者を増やします。

町内の住民や福祉施設で働く方を対象に、介護技術の取得に対する研修費を補助することにより、研修を受講しやすい環境を整え、介護人材不足の解消と介護や認知症に対する理解を広めます。

障がい者（児）支援についても、障がいのある方が地域で安心し、自立した生活ができるよう、日常生活や社会参加を支える支援に積極的に取り組みます。さらに、本年度は、障がい者団体活動支援として、昨年10月に開催された「全国障がい者スポーツ大会 笑顔つなぐえひめ大会」に広島県代表として陸上競技種目に参加し、銀メダルを獲得した方のさらなる挑戦を支援します。

子育て支援においては、神石高原町版ネウボラと位置付け、「子育て世代包括支援センター」を設置し、母子保健と子育て支援が一体となった、切れ目のないサポートにより、母子の健やかな発達・発育支援を行います。

子ども医療や不妊治療費の助成、乳幼児のロタウイルスワクチン接種補助事業や子どものインフルエンザ予防接種に対する補助を継続します。1歳の誕生日や小・中学校入学時に祝い金を支給するほか、第2子以降の保育所や幼稚園、託児所への預け入れに係る費用を助成（実質無償化）し、経済的負担を軽減するほか、第2期子ども・子育て支援事業計画策定に向け保護者等へのアンケート調査を実施し、安心して子育てができる環境づくりを進め、定住者の確保と合計特殊出生率2.1を目指します。

保育においては、老朽化したくるみ保育所を新築し、子どもたちが快適な環境の中で過ごせるよう保育環境を整えます。また、保育所研修を充実し保育の質の向上を図るとともに、子育て世代包括支援センターと連携し、発達に課題を抱える子ども、保護者への支援の充実を図ります。

新しい取り組みとして、住民課や支所窓口にて、婚姻、出生届を提出さ

れた方に、その写しをオリジナルホルダーに納め、記念品として贈呈し、人生の節目をお祝いします。

（3）「自然と歴史を生かした教育・文化のまちづくり」

- ・学校教育の推進 ・社会教育・社会体育の推進
- ・豊かな歴史と文化の育成，振興 ・男女共同参画社会づくりの推進

学校教育においては、教職員の資質向上や学習支援員の配置，少人数の良さを生かした教育の推進により，学力の定着，向上を図ります。

また，自ら課題を発見，解決していこうとする意欲や体力の向上について，各学校の課題を明らかにし解決に取り組みます。さらに，子どもたちの創造力や郷土愛を育み，次世代議会での提案など学校を核とした地域力の創造と向上に取り組みます。

世界を相手にできる人材づくりとして，高校生に加え中学生の海外研修を実施します。また，2020年の教育改革も視野に，英語教育コーディネーターを設置し，保育所・幼稚園，小学校，中学校と一貫した英語教育の実現を目指し，21世紀に活躍する人材の育成に取り組みます。

昨年11月，神石高原町教育委員会と幼稚園から高校まで併せ持つ学校である，オーストラリアのバンダバーグ クリスチャン カレッジとの連携協定を結びました。この協定を機に，油木高校が行っている語学研修を拡大するとともに，中学生の海外交流体験事業，小学校児童の国際交流事業にも取り組みます。

3歳児からの英会話学習としては保育所・幼稚園で英会話体験を実施し，英語に触れる，慣れる体験や経験をする機会をつくります。小学校では，英語教育教材の充実を図るとともに，平成29年度も実施した4年生を対象とした1日英語体験学習（イングリッシュイマージョンプログラム）を行います。

教育環境整備につきましては、油木小学校の体育館改修及び来見小学校プール改修を行うとともに、神石高原中学校花済コースのスクールバスを更新し、通学時における児童生徒の安全確保に努めます。

併せて、学校給食の実質無償化に継続して取り組み、子育て世代の負担軽減とともに、食育の推進と充実した学校給食の提供に努めます。

教養の町読書推進事業については、読書への関心を深め、積極的、自主的な読書活動を推進する取り組みを、学校、図書館、各協働支援センターと連携して行います。

中高一貫教育は5年目を迎えます。引き続き、県立油木高校と連携し、教師の相互派遣、英語暗唱大会、学力向上対策などの積極的な教育連携に取り組みます。

油木高校に対する支援としましては、はやぶさ塾の指導教科等の充実や新たに開設する「夢ゼミ」の開講に加え、英語、漢字、数学、ニュース時事、家庭科技術検定などの検定料や受講料の助成を継続し、油木高校の教育の推進と魅力づくりに取り組みます。

社会体育の推進では、油木体育館外壁・内壁改修、旧豊松中学校体育館の屋内グラウンド化、三和野球場トイレ棟新築、三和多目的広場トイレの洋式化を行い、スポーツを通じたコミュニティ活動と子どもたちの心身の健全育成、町民の体力向上と健康づくりに取り組みます。

その他、町内の達人ネットワーク「神石高原こだわり楽人の会」の活動を支援し、地域の伝統芸能の継承と新たな芸能、文化の継承、育成に加え、観光、起業の可能性を検討します。

(4)「地域資源を生かした活力ある産業と交流のまちづくり」

- ・農林業の振興　・商工業の振興　・リゾートレクリエーションの振興
- ・都市との交流の促進　・企業誘致

競争力の高い農業の実現として、超高付加価値農業の推進、産直市場の経営見直しに取り組みます。

町の統一ブランド「J I N (神) premium」認定制度の活用によりブランド化戦略を図り、有利に販売するための付加価値を高め、農業を中心とした暮らしが可能になる取り組みを進めます。

さんわ182ステーションについては、本町の玄関口として更なる魅力づくりに向けた大胆なリニューアルを行い、利用者に配慮した店舗整備と新商品の開発を行い、サービスの向上と売り上げ拡大に取り組みます。

また、「まるごと市場」廃止に伴う、エブリイ「地縁マルシェ」への移行を円滑に行い、町内農産物の出荷先の確保と生産農家の所得の向上を図ります。

農業の後継者確保、育成対策として、引き続き、マル豊トマトのブランドを活かした儲かる農業の実現と生産規模の拡大に向けて、トマト新規就農者研修事業を行い、新たな入植者を確保します。併せて、新規就農者の指導体制をつくり、新規就農者の育成に取り組みます。

模擬経営圃場での研修を終えた研修生の、確実な就農に繋がる取り組みとして、農地の確保と基盤整備に速やかに対応できる体制をつくります。階見、黒木谷地区に新たにトマト団地を造成し、研修生の就農意欲の向上と就農後の早期経営安定と所得の向上を図ります。

油木高校を対象とした農業後継者の確保対策としては、広島県立農業技術大学校へ進学した生徒を対象に、卒業後の町内への就農を支援し定住対策につなげます。

農業生産団体等に対する支援については、本年度も、町内産飼料米の需要に対応しWCS用稲の生産拡大を図ります。また、町内の農業生産法人の育成を行うため、機械導入費を助成し、地域営農体制の強化と農業生産団体の育成を図り、営農意欲の向上と基幹産業である農業の活性化及び雇用の創出に取り組みます。

林業関係については、林業再構築プロジェクトやひろしまの森づくり事業などを活用し、山林の保全と再生に努めます。本年度も、次世代林業基盤づくりによる林内路網整備や人工林の間伐を行うとともに、木質バイオマス用として搬出された木材の量に応じて山林所有者への補助を行い、間伐材等の活用を促進させ、森林施業の推進につなげます。

商工業の振興では、雇用に係る町内企業の支援として、雇用促進奨励助成や新規学卒者雇用奨励助成を継続し、雇用の確保に取り組みます。また、店舗のリニューアル、空き家購入及び貸借による開業についても継続支援をいたします。

町内の中小企業者支援としては、金融機関からの新規借入者に対する利子補給事業を継続し育成支援に取り組みます。

地元企業に対する支援としては、工場等設置奨励事業を継続して行います。とりわけ、本年度、企業誘致の取り組みとして、新たに政策企画課に企業誘致担当者を配置し、営業活動や情報発信を行うとともに、誘致戦略や施策を検討、実施する体制を整備します。この他、農業関連企業参入の促進や新規就農予定者の生活支援の取り組みを行い、雇用拡大、定住促進につなげます。

また、油木山村開発センター内にお試しオフィス（キャンパス）を設置し、モニターツアーや遊休施設の紹介、お試し勤務を実施し、「地方創生×最先端技術」に着眼した企業等を対象とした「地方課題解決型サテライトオフィス」の誘致に取り組みます。働き方改革が進む中、定住支

援、子育て支援と併せて、県も進める仕事と子育てや趣味の両方を充実させる「欲張りライフ」の実現に向け、魅力的な働きやすい場所を整備し、雇用拡大、定住促進につなげます。

神石高原地域創造チャレンジ基金と、ビジネスコンテスト、ふるさと回帰塾の開催などにより、地域資源を活用したビジネスチャレンジへの資金的支援と伴走型支援、新規起業等育成支援や人材育成に取り組みます。

ビジネスコンテストでは、起業や規模、雇用拡大につながるアイデアを募集し、優れたアイデアを提案した方を表彰する事業を今年度も行います。

また、本年度は、広島県と連携し、里山資本主義実践者交流会と中国地方地域おこし協力隊研修会を本町で合同開催し、人材育成やU I ターナーの確保に取り組みます。

観光では、観光協会が旅行業登録を行い、森林セラピーの促進や自然の魅力を生かしたツアーの開催等により観光客の増加に取組み、関係人口の増を目指します。PRの面では、英語版パンフレットを作成し、本町の恵まれた自然環境や観光情報を町内外へ情報発信し、本町の魅力を広めます。

P F I 事業として整備を進めた仙養ヶ原森林公園の観光事業に対する支援を引き続き行い、自然と命の尊さを体験する公園として、町内の他の観光資源との連携を図り観光客の誘致に取り組みます。

また、スコラ高原帝釈の湯の改修を行い、スポーツ、観光施設としての魅力ある施設に整備し、リゾートレクリエーションの振興を図ります。

(5) 「交通・情報通信基盤の整った一体感あふれるまちづくり」

・道路、交通体系の整備 ・情報通信基盤の整備

道路改良等の対策としては、継続路線の早期完了に取り組みます。

また、インフラ対策としては、老朽化した橋梁の補修等、個別施設計画を策定し、修繕費用等を明確にすることで、財政負担の低減と平準化を図りながら、持続可能なメンテナンスサイクルの構築を図ります。

道路維持対策については、自治振興会を対象に認定町道等の草刈や支障木伐採、除雪作業に対する支援を引き続き行い、協働によるまちづくりへの意識を醸成します。

地域公共交通バスの運行が大幅に見直される中、町営バスの運行においては、豊松～町立病院線を廃止しますが、今後は、住民ニーズにも配慮し、ふれあいタクシー事業による生活交通の充実確保に取り組みます。

本町の情報通信サービスの基盤である「かがやきネット」については、本年度も、告知システム放送設備の更新を行い、安定したサービスの提供に努めます。

(6) 「長期総合計画の推進のために」

・行財政改革の推進 ・情報発信、情報活用 ・広域連携の推進

誰もが挑戦できるまち神石高原町の創造に向け、全庁的に効率的、効果的な業務遂行の実現を図ります。実現の原動力となる職員には、更なる組織強化と効率的で確実な業務の遂行、計画における目標数値を意識した、業務の推進が求められます。徹底した研修等による職員の意識改革、人材育成を促しながら、町民とともに町の課題に挑戦できる職員の育成に取り組んでまいります。

また、平成32年度からの会計年度任用職員制度導入に向け、臨時、非常勤職員の実態把握、任用や勤務条件等の検討を行い、条例、規則等

の整備を行ってまいります。

平成28年度決算をみても、現在、本町の財政状況は健全な状況を持しており、110億を超える基金を保有するまでになりました。今後は、庁舎、病院建設に係る起債発行が大幅に増加することから、本年度繰上償還を行うことにより、後年度における公債費の上昇を抑制するとともに、基金の効果的な活用を行い、持続可能な財政運営に努めてまいります。

また、本町は合併により、機能の重複した公共施設が多く、老朽化や耐震化の問題に直面しています。既存施設の利用状況や必要性を見極め、神石高原町公共施設等総合管理計画に掲げた、「施設の5%削減」の目標に向けて、個別管理計画を策定し、維持更新や解体などを計画的かつ効率的に進めてまいりたいと考えております。

情報発信においては、広報、ホームページによる情報発信、昨年公開したフェイスブックページ等による情報共有や交流等で、町の魅力と活動を全国に伝えるとともに、人と人とのつながりをつくっていきます。

また、行政区域を越えた活力ある地域づくりや課題解決には、広域連携が多くのチャンスを秘めています。自治体間競争ではなく自治体間連携、組織間連携により、お互いに協力しながら、一層効率的かつ効果的な行政を推進していきます。

(7) 8つの挑戦の成長と新たな種まき

本年度は、種をまいた8つの挑戦から芽吹いてくる「芽」をしっかりと育てるとともに、新たな挑戦の種をまく年になります。

今年度の挑戦の主な施策は、

挑戦1 超高付加価値農業の実現

- ・「J I N (神) premium」ブランド化戦略の実行

- ・さんわ182ステーションリニューアル, 新商品開発

挑戦2 チャレンジファンドの創設

- ・神石高原チャレンジ基金の運営・実行

挑戦3 協働のまちづくりの推進

- ・行政懇談会, まちづくり懇談会, 「ようこそ町長室へ」の開催
- ・町民の提言, 助言の町政反映への取り組み

挑戦4 世界を相手にできる人財づくり

- ・「夢ゼミ」による21世紀型スキルの育成(新)
- ・中学生(新)・高校生海外研修の充実
- ・3歳児から中学生まで一貫した英語教育の推進

挑戦5 町民が尊敬しあえる環境づくり

- ・達人ネットワーク組織の支援
- ・表彰制度の創設

挑戦6 定住促進の強化

- ・第2定住促進団地整備
- ・お試しサテライトオフィスの整備(新)
- ・企業誘致戦略の強化(新)
- ・農業企業誘致促進(新)
- ・トマト団地造成(新)

挑戦7 医療福祉サービスの充実

- ・町立病院建築プロジェクト 実施設計・造成工事
- ・神石高原町子育て世代包括支援センター開設(新)
- ・ひとり親世帯等の経済的支援
放課後児童クラブの利用料無料化(新)
- ・くるみ保育所建設(新)
- ・神石高原町保健医療計画検討委員会の立ち上げ

挑戦8 行財政改革の推進

- ・新庁舎建設
- ・人材育成

この挑戦を重要施策（核）として各事業に取り組み、様々なプロジェクトを牽引し、波及効果を生み、「まち、ひと、しごと」を育て、「人と自然が輝く高原のまち」を創造します。

5. 終わりに

以上が、平成30年度における当初予算の概要でございます。

新年度におきましては、予算編成方針である「めざせ人口増（社会増）神石高原町の魅力アップ」に向け全力で取り組んでまいります。

その取り組みの推進力となるのは「人材」、「人と人とのつながり」と、「伝える」という取り組みです。常に志を高くもった人材による活力向上、幅広い多様なつながりによる可能性の拡大、ターゲットを絞った情報発信による魅力化の伝達、この3つのエンジンにしっかり給油し、高回転で動かすことにより目的を達成させていきたいと考えております。

町長就任2年目に入りました。町長としてひととおりの行事も経験し、本年は、地道に、確実に、「確かな決断」によって事業を進めてまいります。

また、職員による町民の皆様に対する説明責任の履行、「説得」ではなく「納得」による事業執行を心掛け、町政運営に努めてまいります。

議員各位、町民の皆様の変わらぬご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

新年度の予算につきましては、議員各位の、活発なるご議論をいただき、ご議決を賜りますようよろしくお願いいたします。